

3-4 ヨーロッパ史

研究・教育活動の概要と特色

ヨーロッパ史は、法文学部発足当初からの 90 年余にわたる長い歴史を有し、草創期以来の「厳密な実証研究」の伝統を継承しつつ、多様な問題関心と研究手法に基づいて研究を展開しているところに特色がある。欧米の研究文献の綿密な読解と原典史料の緻密な分析に基づく高度の実証的理論的研究は言うに及ばず、教員が各々国制史、社会経済史、地域社会史、社会史・心性史等、多様な研究方法に基づいて、構想力豊かな質の高い研究成果をあげている。

教育活動については、大学院博士課程を有する研究室として、また大学院重点化大学として、研究者・教育者の養成を第一義としてきた伝統があるが、社会の多方面において活躍できる人材の育成も求められて久しい。従って研究者・教育者養成と同時に、高度な識見と職能を有する専門職業人育成と連携できるような基礎的知識、語学力、そして欧米の歴史と現代世界についての広い視野また深い洞察力を鍛錬していくことを教育方針として、学部学生及び大学院学生の指導・教育にあたっている。研究室の教員・大学院生全員参加の大学院研究例会は、修士論文及び課程博士論文作成予定者の研究報告の場であり、教員・院生の間で、毎回活発な議論が展開されている。着実な不断の努力の積み重ねが本研究室の研究・教育活動の特色である。

I 組織

1 教員数 (2015 年 5 月 20 日現在)

教授：2

准教授：1

講師：0

助教：1

教授：小野善彦

教授：有光秀行

准教授：浅岡善治

助教：小坂俊介

2 在学生数 (2015 年 5 月 20 日現在)

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
41	0	2	4	0

3 修了生・卒業生数 (2010～2014 年度)

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
10	7	3	1
11	11	7	4
12	8	1	1
13	12	2	0
14	7	1	0
計	45	14	6

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動 (2010～2014 年度)

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
10	1	0	1
11	4	0	4
12	1	0	1
13	0	0	0
14	0	0	0
計	6	0	6

1-2 博士論文提出者氏名,年度,題目,審査委員

永本哲也,2010 年度,『1525-1534 年ミュンスター宗教改革・再洗礼派運動—都市社会運動の総体把握の試み—』

審査委員:教授・小野善彦(主査),教授・佐藤勝則,教授・佐藤嘉倫,准教授・有光秀行

府中望,2011 年度,『フランス旧体制と社团的編成の研究 - 特権,中央集権化,救貧 - 』

審査委員:教授・小野善彦(主査),教授・佐藤勝則,教授・今井勉,准教授・有光秀行

大谷哲,2011年度,『初期キリスト教における殉教者の歴史学的研究』

審査委員：教授・佐藤勝則(主査),教授・小野善彦,准教授・有光秀行,准教授,木村敏明

杵淵文夫,2011年度,『ドイツ第二帝政期におけるフリードリヒ・ナウマンの社会思想と中欧思想 - ヨーロッパ統合史の視点から - 』

審査委員：教授・佐藤勝則(主査),教授・小野善彦,准教授,有光秀行,准教授,寺山恭輔

細谷要,2011年度,『ヴァイマル共和国初期エルツベルガー財政改革の意義とその限界』

審査委員：教授・佐藤勝則(主査),教授・小野善彦,教授・森本浩一,准教授・有光秀行

小坂俊介,2012年度,『後期ローマ帝国の政治と歴史叙述 - アンミアヌス・マルケリヌス『歴史』の研究 - 』

審査委員：教授・小野善彦(主査),教授・熊本崇,准教授・有光秀行

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
10	0	0	0	0	0
11	7	0	0	0	7
12	0	0	0	0	0
13	1	0	0	0	1
14	2	0	0	0	0
15	0	0	0	0	0
計	8	0	0	0	8

*2015年度は5月20日までの数字。ただし,以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
10	1	2	1	0	4
11	1	4	2	0	7
12	1	3	0	0	4
13	0	1	0	0	1
14	0	3	2	0	5

15	0	0	1	0	1
計	3	13	6	0	22

* 2015年度は5月20日までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

池野健「15世紀南ネーデルラント諸都市における「修辞家集団」」, 『西洋史研究』新輯第43号, 52-77頁, 2014.

遠藤直子「ローマ帝政初期のウィルギネス・ウェスタレス」, 『歴史』第122輯, 左1-30頁, 2014.

大谷哲「使徒ヨハネ伝承に見る殉教者概念の変遷」, 『Studia Classica』第2巻, pp.97-126, 2011.

大谷哲「大迫害終結期の告白者と司教の関係 - カノン法における告白者推薦状の取り扱い規定をめぐって - 」, 『西洋史研究』新輯第40号, pp. 114 - 134, 2011.

杵淵文夫「キリスト教社会派期におけるフリードリヒ・ナウマンの社会秩序観」, 『西洋史研究』新輯第40号, 53-83頁, 2011.

永本哲也「ミュンスター宗教改革運動における市参事会の教会政策—1525～34年市内外諸勢力との交渉分析を通じて—」, 『歴史学研究』第876号, pp.20-36, 2011.

細谷要「第一次世界大戦後のエルツベルガー財政改革の理念(1919-20年)—公正な課税原則と連邦主義的観点—」, 『歴史』第116輯, 左1-25, 2011.

(2) 口頭発表

飯島まさみ「近世アウクスブルクにおけるフッガー家の慈善—特にフッゲライについて—」, 2012年度東北史学会大会, 岩手大学, 2012年10月7日.

池野健「十五世紀南ネーデルラント都市の儀礼、祝祭文化と『修辞家集団』の発達」第64回日本西洋史学会, 立教大学, 2014年6月1日.

遠藤直子「アウグストゥス時代のウィルギネス・ウェスタレス」2013年度東北史学会大会, 東北大学, 2013年10月13日.

Satoshi OHTANI, "The death and martyrdom of Apostle John", in, The Sixth international Triennial Conference of the Centre for Early Christian Studies, incorporating The Asia-Pacific Christian Studies Society, St. Patrick's Campus, Australian Catholic

- University, Melbourne, Australia 2010年7月(国際学会)。
- 大谷哲「名前を抹消された殉教者たち：初期キリスト教における教会内政治」，日本西洋史学会第61回大会，日本大学，2011年5月15日。
- 大谷哲「ローマ帝政後期の教会における権力一元化の試み：カノン法に現れる司教と告白者の関係」，東北学院大学オープン・リサーチ・センター2011年度合同研究会，東北学院大学，2011年8月25日。
- 大谷哲「使徒ヨハネの殉教伝承」，古代・東方キリスト教研究会，東京大学駒場キャンパス，2012年3月。
- 大平美希「マクシミリアン1世治世期の帝国国制と宮廷音楽」，2012年度東北史学会大会，岩手大学，2012年10月7日。
- 杵淵文夫「キリスト教社会派期におけるフリードリヒ・ナウマンの社会思想」，2010年度西洋史研究会大会，東北大学，2010年11月20日。
- 杵淵文夫「第一次大戦期独逸における中欧構想とフリードリヒ・ナウマン」，2011年度東北史学会大会，東北大学，2011年10月2日。
- 孫維力「十九世紀前半オーストリアにおける地域主義に関する考察—シュタイエルマルクのヨハン大公を中心に—」，2012年度東北史学会大会，岩手大学，2012年10月7日。
- 孫維力「三月革命前期のオーストリア地域主義に関する考察—シュタイアマルクのヨハン大公を中心に」，平成24年度東北学院大学ヨーロッパ文化総合研究所主催ヨーロッパ近現代史若手研究会，東北学院大学，2013年1月12日。
- 永本哲也「宗教改革期(1525-34年)ミュンスターにおける社会運動と統治制度」東北学院大学オープン・リサーチ・センター研究会例会，東北学院大学，2009年11月27日。
- 永本哲也「宗教改革期(1525-34年)ミュンスターにおける宗教改革と市民層」宗教改革史研究会，早稲田大学，2010年1月30日。
- 細谷要「第一次世界大戦後エルツベルガー財政改革に見る「キリスト教連帯主義」の理念」，2011年度東北史学会大会，東北大学，2011年10月2日。
- 細谷要「ヴァイマル共和国初期におけるエルツベルガーの財政改革構想」，2011年度西洋史研究会大会自由論題報告，立教大学，2011年11月12日。

3 大学院生・学部生等の受賞状況

なし

4 日本学術振興会研究員採択状況

2010年度 DC採用 1人

2013年度 PD採用（受入研究機関：千葉大学） 1人

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2010年度 学部 ゲッティンゲン大学 ドイツ

2011年度 大学院 ルーヴァンカトリック大学 ベルギー

2012年度 大学院 パリ大学 フランス

2013年度 学部 ウィーン大学 オーストリア

学部 ドルトムント大学 ドイツ

年度	学部	大学院	計
10	1	0	0
11	0	1	1
12	0	1	1
13	2	0	2
14	0	0	0
15	0	0	0
計	3	2	4

5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
10	0	0	0
11	0	0	0
12	0	1	0
13	0	0	0
14	0	0	0
15	0	0	0
計	0	1	0

*学部特別聴講生を除く

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
10	1	0	1
11	1	0	1
12	0	0	0

13	0	0	0
14	0	0	0
15	0	0	0
計	2	0	2

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人（2010年度～2015年度5月20日）

7-1 専攻分野出身の研究者

大谷哲、東北大学大学院文学研究科助教、2012年度採用

杵淵文夫、東北学院大学文学部歴史学科専任講師、2015年度採用

小坂俊介、東北大学大学院文学研究科助教、2014年度採用

7-2 専攻分野出身の高度職業人

中高教員6名、ジャーナリスト2名

8 客員研究員の受け入れ状況（2010年度～2015年度5月20日）

なし

9 外国人研究者の受け入れ状況（2010年度～2015年度5月20日）

なし

10 刊行物

『西洋史研究』（年刊）新輯第39号（2010）～新輯第43号（2014）

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

学会開催

2010年度

2010年11月20日,21日 西洋史研究会大会開催 国内学会

2011年度

2011年11月12日,13日 西洋史研究会大会開催 国内学会

2012年度

2012年11月10日,11日 西洋史研究会大会開催 国内学会

2013年度

2013年11月9日,10日 西洋史研究会大会開催 国内学会

2014年度

2014年11月15日,16日 西洋史研究会大会開催 国内学会
学会事務局
西洋史研究会（国内学会）事務局
講演会開催
なし

1.2 専攻分野主催の研究会等活動状況（2010年度～2015年度5月20日）

大学院生研究例会
修士論文構想発表会
2010年9月21日
2011年9月10日,12日,13日
2013年7月20日,27日 2014年9月1日

1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

ヨーロッパ史研究室は、年によって若干のばらつきがあるものの、例年10人前後の学部卒業者、2名前後の大学院博士前期課程修了者、1名前後の博士後期課程修了者を送り出してきた。また特に、海外へ留学する学生が毎年のように出て、その成果を論文などに結実させている。

教員による研究活動および成果発表も活発で、国際学会への参加や外国語での論文執筆も積極的におこなわれている。

研究室全体としては、全国学会「西洋史研究会」の主催校として、西洋史の専門研究雑誌『西洋史研究』新輯号の年一回の刊行と、学会開催（仙台と東京）を軸に、研究活動を推進してきた。教員は雑誌の編集や学会企画への貢献というかたちでも、全国規模での西洋史研究の発展に寄与している。また『西洋史研究』の「紹介文」のジャンルでは、博士前期課程1年次が海外の研究書の紹介文を継続的に執筆掲載しており、東北史学会西洋史部会での自由論題報告とあわせ、修士論文執筆に向けての基礎作業を形にしている。さらに、学会シンポジウムの討論部分の録音テープを活字にする作業も大学院学生が率先しておこない、学問的討論の仕方を学ぶ機会としてきた。

一方で、日常的な研究・教育活動の場のひとつとして、7月ないし9月に修士論文執筆予定者が研究報告を行う大学院研究例会を、また博士学位論文執筆者が研究報告を行う学位論文予備審査会を開催し、大学院学生と教員スタッフ全員がこれに参加してきた。

過去5年間の学位取得者数は従来どおりだが、学術振興会特別研究員への採用件数、研究機関への就職状況については、このところ停滞ぎみである。

Ⅲ 教員の研究活動（2010年度～2015年度5月20日）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

小野善彦「十六世紀中葉上バイエルンの都市 Wasserburg における教区聖職者の『宗派混淆状態』」『東北大学文学研究科研究年報』第62号, pp.124-104, 2013.

Hideyuki ARIMITSU, 'The Libermann Library in Tokyo', S. Jurasinski et al. (eds), *English Law Before Magna Carta*, Brill, pp. 27-40, 2010.

Hideyuki ARIMITSU, 'Memories and communications in the medieval Irish Sea World', *East-Asian Journal of British History*, vol. 1, pp. 45-51, 2011.

有光秀行「続・ネイション・アドレス考」, 『文化』第74巻3・4号, pp. 1- 14, 2011.

有光秀行「中世ブリテン諸島史における統合と共生の諸相」, 『ヨーロッパ・グローバル化と諸文化圏の変容に関する研究』東北学院大学オープン・リサーチ・センター, pp. 129- 136, 2012.

有光秀行「ある島嶼王国の興亡と『ヨーロッパ化』」, 渡辺昭一編『グローバル化の歴史的位相』, 勉誠出版, pp.75-86, 2012.

有光秀行「イングランドの『東北』史」, 柳原敏昭編『東北史を開く』, 山川出版社, 2015年刊行予定.

Дзэндзи АСАОКА//Крестьянская печать и общественность в нэповской советской деревне : сельский корреспондент как деревенский актив (XX век и сельская Россия. Российские и японские исследователи в проекте «история российского крестьянства в XX веке». Выпуск 2. Под редакцией Хироси Окуда. Токио, С.110-129), март 2012 г.

浅岡善治「ネップ期における社会的活動性の諸類型 —村アクチーフとしてのセリコルー」(野部公一・崔在東編『20世紀ロシアの農民世界』日本経済評論社, 153-189頁), 2012年.

小坂俊介「カルケドン裁判考」, 『歴史』第116輯, pp.1- 30, 2011.

小坂俊介「シルウァヌス反乱に関する諸史料 - 古代末期における歴史叙述とアンミアヌスの影響 - 」, 『西洋史研究』新輯第40号, pp. 135- 151, 2011.

1-2 著書・編著

有光秀行『中世ブリテン諸島史研究』, 刀水書房, 2013.

1-3 翻訳,書評,解説,辞典項目等

- 有光秀行「『中世盛期における領邦君主の文書と文書局』についてのコメント」
『西欧中世文書の史料論的研究』平成 21 年度科学研究費補助金(基盤研究(B),
研究代表者・岡崎敦)研究成果報告書, pp. 98- 100, 2010.
- 有光秀行「『中世マン島と諸島王国史』再考」, 『ヨーロッパ・グローバリゼーションと諸文化圏の変容: 研究プロジェクト報告書 III』東北学院大学オープン・リサーチ・センター, pp. 86- 99, 2010.
- 有光秀行「史実と虚構のはざまを駆けるロビン・フッド」, 映画『ロビン・フッド』プレスシート(ページ記載なし), 2010.
- 有光秀行「ロビン・フッドについて」「映画に出てくる人物たち」, 映画『ロビン・フッド』パンフレット(ページ記載なし), 2010.
- 有光秀行「Hirokazu TSURUSHIMA (ed.), *Nations in Medieval Britain*」『西洋中世研究』2, pp. 216-217, 2010.
- 有光秀行「P. J. ギアリ, 鈴木道也・小川知幸・長谷川宜之訳『ネイションという神話 ——ヨーロッパ諸国家の中世的起源——』」『歴史』第 116 輯, pp. 129-131, 2011.
- 有光秀行「ヘンリエッタ・レイザー「文化のつながり」『オックスフォード・ブリテン諸島の歴史』第 4 巻, バーバラ・ハーヴェイ編, 吉武憲司監訳, pp. 212-255, 2012 年.
- 有光秀行「『イングランド人の歴史』の誕生(報告要旨)」, 『ケルティック・フォーラム』18 号, 2015 年 9 月刊行予定.
- 浅岡善治「〔史料紹介〕初期ソヴィエト検閲史料(2) ——1927 年の『機密該当問題一覧』」(『福島大学人間発達文化学類論集』第 12 号, 1-16 頁), 2010 年 12 月.
- 浅岡善治「『独裁』と『世論』 ——1920 年代ソ連における改良・改革・革命」(青山学院女子短期大学総合文化研究所「革命・改革・改良の比較研究」研究プロジェクト, 『青山学院女子短期大学総合文化研究所年報』第 18 号, 81-96 頁), 2011 年 1 月.
- 浅岡善治「革命的言辞から体制的修辞へ —— 革命ロシアにおける煽動・宣伝活動の展開」(『ヨーロッパ・グローバリゼーションと諸文化圏の変容: 研究プロジェクト報告書 V』東北学院大学オープン・リサーチ・センター, 255-266 頁), 2012 年 3 月.
- ヴィクトル・コンドラシン「1930 年代初頭のソ連における飢饉の発生メカニズム」

- ム」浅岡善治訳, (野部公一・崔在東編『20世紀ロシアの農民世界』日本経済評論社, 43-57頁), 2012年6月.
- ガリーナ・ドブロノーゼンコ「権力による名称付与の帰結としての『クラーク』」奥田央・浅岡善治訳(野部公一・崔在東編『20世紀ロシアの農民世界』日本経済評論社, 259-290頁), 2012年6月.
- 浅岡善治「〔史料紹介〕初期ソヴィエト検閲史料(3)——1931年の『機密該当問題一覧』」(『福島大学人間発達文化学類論集』第17号, 1-15頁), 2013年6月.
- 浅岡善治「〔パネル報告要旨〕ネップと『ソヴェーツカヤ・オブシエストヴェンノスチ』」, 『ロシア史研究』第81号、2014年5月.
- 浅岡善治「〈書評〉松井康浩著『スターリニズムの経験—市民の手紙・日記・回想録から』」『歴史』第124輯, pp.113-121, 2015年4月.
- 原賢治・大谷哲・小坂俊介訳「スエトニウス『文法家・修辞家列伝』」『Studia Classica』第2巻, pp. 253-278, 2011.
- 小坂俊介「書評 Bill Leadbetter, Galerius and the will of Diocletian, Routledge, London and New York, 2009, 282+xiv.」『ヨーロッパ・グローバリゼーションと諸文化圏の変容 研究プロジェクト報告書・IV (東北学院大学オープン・リサーチ・センター (ヨーロッパ))』, pp.119-125, 2011.
- 小坂俊介「書評 J. F. Drinkwater, The Alamanni and Rome 213-496 (Caracalla to Clovis), Oxford UP, 2007」『Studia Classica』2, pp.355-368, 2011.
- 小坂俊介「合同部会 (2011年度歴史学研究会大会報告批判)」(小坂俊介, 黒田祐我, 小笠原弘幸 (他)) 『歴史学研究』887, pp. 48-58, 2011 (小坂担当部分は田中報告批判, 48 - 50頁) .
- 小坂俊介「アンミアヌス・マルケリヌス『歴史』に関する近年の研究動向」『Studia Classica』3, pp. 165-190, 2012.
- 小坂俊介「書評 南川高志著『新・ローマ帝国衰亡史』」『西洋史学』251, pp. 44-46, 2013.
- 小坂俊介「書評 Peter Van Nuffelen, Orosius and the Rhetoric of History, Oxford UK: Oxford University Press, 2012, viii+252 pp.」『ヨーロッパ文化史研究』15, pp. 155-164, 2014.
- 小坂俊介『ペンブックス22 美の起源、古代ギリシャ・ローマ』阪急コミュニケーションズ, 2014年7月, 15~19頁, 30~35頁.

1-4 口頭発表

(1) 国際学会

Hideyuki ARIMITSU, “Memories and communications in the medieval Irish Sea World”,
The Fourth Japanese-Korean Conference of British History, 熊本大学, 2010年11
月13日.

Дзэндзи АСАОКА//Крестьянская печать и общественность в нэпской советской
деревне: сельский корреспондент как деревенский актив, Русско-японская
международная конференция «история российского крестьянства XX века»,
Токийский университет, 26 ноября 2011 г.

Shunsuke KOSAKA, “The use of Ammianus Marcellinus by Christian authors: Orosius
and Socrates Scholasticus”, The Asia-Pacific Early Christian Studies Society 7th
Annual Conference, Luce Center, Presbyterian College and Theological Seminary
(Seoul, South Korea), 2012 July 5.

Shunsuke KOSAKA, “Did the Pagan mob try to prevent the cult of the martyr? The killing
of George, bishop of Alexandria”, Asia-Pacific Early Christian Studies Society 9th
Annual Conference, Toyo Eiwa University (Yokohama, Japan), 2014 September 6.

(2) 国内学会

有光秀行「『イングランド人の歴史』の誕生」, 日本ケルト学会研究大会, 宮城学
院女子大学, 2014年10月12日.

浅岡善治「『タルムード』の前史 —初期ソヴィエト検閲制度の展開 (1922-1927
年)」, 2010年度福島大学史学会大会・自由論題報告, 福島大学, 2010年11
月23日.

Zenji ASAOKA “NEP and Sovetskaja obshchestvennost’”, パネルディスカッション
「ソヴィエト的公衆・公論・公共性— общественность 概念をてがかりに」第
1報告, ロシア史研究会 2013年度大会, 明治大学, 2013年10月13日.

浅岡善治「西洋史研究会 2014年度大会共通論題: 戦争と『未完のネイション』」,
趣旨説明および司会, 東北大学, 2014年11月16日.

小坂俊介「カルケドン裁判考」, 東北学院大学オープン・リサーチ・センター2010
年度合同研究会, 東北学院大学, 2010年8月26日.

小坂俊介「シルヴァヌスの反乱とその鎮圧 - アンミアヌス証言の史実性と伝承の
変遷をめぐって - 」, 2011年度東北史学会大会, 東北大学, 2011年10月2

日.

小坂俊介「史料としてのアンミアヌス・マルケリヌス」, 第10回古代史研究会大会, 京都大学, 2011年12月18日.

小坂俊介「アンミアヌス・マルケリヌス著『歴史』における書記官『鎖』のパウ
ルスの記述」第63回日本西洋史学会大会, 京都大学, 2013年5月12日.

小坂俊介「コンスタンティウス2世の軍団司令官フラウィウス・アルビティオ -
後期ローマ帝国の軍団司令官に関する諸論点 -」2013年度東北史学会大会,
東北大学, 2013年10月13日.

小坂俊介「コンスタンティノーブルのソクラテス著『教会史』の典拠は何か? -
『教会史』におけるアンミアヌス・マルケリヌス著『歴史』の利用を中心に
-」第64回日本西洋史学会, 立教大学, 2014年6月1日.

(3) 研究会

有光秀行「最近の『マン島と諸島の王国』史研究の動向」, 西欧中世史研究会,
大分, 2010年5月28日.

有光秀行「『ノルマン帝国』論の現在 -ベイツの近著を中心に-」, イギリス中
世史研究会, 早稲田大学, 2014年6月1日.

浅岡善治「革命的言辞から体制的修辞へ -革命ロシアにおける煽動・宣伝活動の
展開」, 東北学院大学オープン・リサーチ・センター公開フォーラム「危機
の時代と『国民』, プロパガンダ -戦間期ドイツ, ロシア, フランス」, 東
北学院大学, 2011年9月16日.

小坂俊介「アレクサンドリアの異教徒は殉教者崇拝を妨げようとしたのか? : ア
レクサンドリア司教ゲオルギオスの殺害」古代・東方キリスト教研究会第18
回会合, 東京大学, 2014年7月13日.

2 教員の受賞歴 (2010年度~2015年度5月20日)

なし

IV 教員による競争的資金獲得 (2010年度~2015年度)

(1) 科学研究費補助金

有光秀行

2010~2011年度 科学研究費補助金: 基盤研究(B) (連携研究者) 「西欧中世文書
の史料論的研究」 (研究代表者・岡崎敦).

2010～2012 年度 科学研究費補助金：基盤研究(C)（研究代表者）「『リーバーマン文庫』研究」.

2012 年度 科学研究費補助金：研究成果公開促進費.

2015～2017 年度 科学研究費補助金：基盤研究(C)（研究代表者）「ノルマン人の『帝国』と地方社会」.

2015～2018 年度 科学研究費補助金：基盤研究(B)（研究分担者）「中・近世西欧における書簡とコミュニケーション——行政・法・宗教そして社会」.

浅岡善治

2008～2010 年度 科学研究費補助金：若手研究(B)（研究代表者）「初期ソヴィエト出版政策史研究」.

2011～2013 年度 科学研究費補助金：基盤研究(B)（研究分担者）「近現代ロシアにおける公衆/公論概念と市民の『主体性（agency）』」.

小坂俊介

2010～2012 年度 科学研究費補助金：特別研究員制度（研究代表者）「ディオクレティアヌス帝以降のローマ帝国における皇帝と軍隊の政治史研究」.

（2）その他

V 教員による社会貢献（2010 年度～2015 年度）

小野善彦

出前授業：埼玉県立熊谷女子高校，2010 年 11 月 22 日.

みやぎ県民大学，2011 年 9 月 16 日.

出前授業：岩手県立盛岡第四高校，2012 年 10 月 24 日.

有光秀行

NHK 文化センター（仙台）講師，2008 年～.

学部・学科説明会講師 仙台第一高等学校，2013 年 10 月 31 日，2014 年 10 月 30 日.

浅岡善治

福島県高等学校地理歴史・公民科研究大会 世界史分科会 報告助言者（2010 年度）.

VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2010 年度～2015 年度）

小野善彦

西洋史研究会代表理事

東北史学会評議員

有光秀行

西洋史研究会理事

東北史学会評議員（～2013年度）、監事（2014・2015年度）

浅岡善治

福島大学史学会常任委員（～2013年度）

東北史学会・評議員

東北史学会・理事（2014年～現在）

西洋史研究会・会計監査委員（2012年度）

西洋史研究会理事（2013年～現在）

小坂俊介

西洋史研究会事務局委員（2013年～現在）

Ⅶ 教員の教育活動

（1）学内授業担当（2015年度）

1 大学院授業担当

小野善彦教授

1学期 西洋中近世史研究演習Ⅴ 西洋近世史料研究

1学期 西洋中近世史研究演習Ⅶ 西洋中世史の諸問題

2学期 西洋中近世史研究演習Ⅵ 西洋近世史料研究

2学期 西洋中近世史研究演習Ⅷ 西洋中世史の諸問題

通年 課題研究

有光秀行教授

2学期 西洋中近世史特論 史料にみるノルマンディ公・イングランド王ウィリアムと中世西北ヨーロッパ

1学期 西洋中近世史研究演習Ⅰ 中世ヨーロッパ史研究

2学期 西洋中近世史研究演習Ⅱ 中世ヨーロッパ史研究

1学期 西洋中近世史研究演習Ⅲ ヨーロッパ中世史料研究

2学期 西洋中近世史研究演習Ⅳ ヨーロッパ中世史料研究

通年 課題研究浅岡善治准教授

1学期 欧米近現代史研究演習Ⅰ スターリニズムとナチズム—歴史的比較

2学期 欧米近現代史研究演習Ⅱ スターリニズムとナチズム—歴史的比較

- 1 学期 欧米近現代史研究演習Ⅲ 欧米近現代史研究方法論
2 学期 欧米近現代史研究演習Ⅳ 欧米近現代史研究方法論
通年 課題研究

2 学部授業担当

小野善彦教授

- 第2 Semester 英語原書購読入門
第3 Semester ヨーロッパ史概論 中世都市と西欧世界
第4 Semester ヨーロッパ史概論 中世都市と西欧世界
第3 Semester ヨーロッパ史基礎講読 英語文献講読
第4 Semester ヨーロッパ史基礎講読 英語文献講読
第5 Semester ヨーロッパ史演習 西洋中世史の諸問題
第6 Semester ヨーロッパ史演習 西洋中世史の諸問題

有光秀行教授

- 第3 Semester ヨーロッパ史基礎講読 フランス語文献精読
第4 Semester ヨーロッパ史基礎講読 フランス語文献精読
第5 Semester ヨーロッパ史演習 中世ヨーロッパ史研究
第6 Semester ヨーロッパ史各論 ノルマンディ公・イングランド王ウィリアムと中世西北ヨーロッパ
第6 Semester ヨーロッパ史演習 中世ヨーロッパ史研究

浅岡善治准教授

- 第3 Semester ヨーロッパ史概論 第一次世界大戦と「昨日の世界」
第4 Semester ヨーロッパ史概論 第一次世界大戦と20世紀世界
第3 Semester ヨーロッパ史基礎講読 ドイツ語文献講読
第4 Semester ヨーロッパ史基礎講読 ドイツ語文献講読
第5 Semester ヨーロッパ史演習 スターリニズムとナチズム—歴史的比較
第6 Semester ヨーロッパ史演習 スターリニズムとナチズム—歴史的比較

3 共通科目・全学科目授業担当

全学教育科目

有光秀行教授

第1 Semester 基礎ゼミ 西洋史の世界を読む
小坂俊介助教

第1 Semester 基礎ゼミ マンガから見る西洋史

(2) 他大学への出講 (2010年度～2015年度)

有光秀行教授

東北学院大学大学院文学研究科「ヨーロッパ文化史概論」2011年～2012年度.

放送大学宮城学習センター「中世ブリテン諸島の民と国家」2013年度.

浅岡善治準教授

東北学院大学文学部「ヨーロッパ史・アメリカ史の諸問題 IA」2013年度.

小坂俊介助教

立教大学大学院文学研究科「西洋史特殊講義 2A・2B」2014年度.

東北学院大学文学部「ラテン語初級」2015年度.